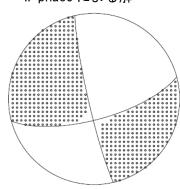
1月10日 ホンジュラス北方の地震 (W-phase を用いた発震機構解析)

W-phase による解

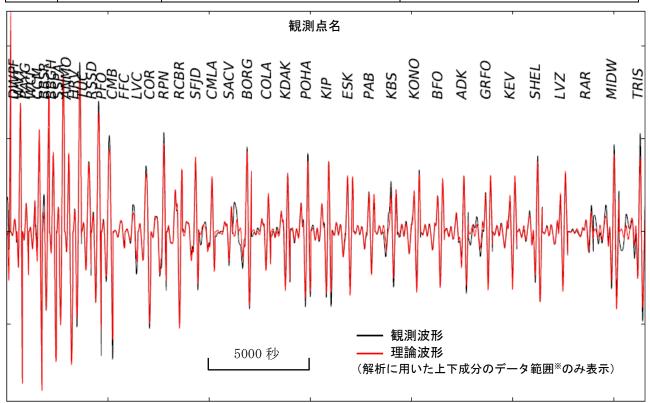


2018 年 1 月 10 日 11 時 51 分 (日本時間) にホンジュラス北方で発生した地震について W-phase を用いた発震機構解析を行った。発震機構、Mw とも、他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mw は 7.6 であった。なお、W-phase の解析で求めた震源はN17.5°、W83.7°、深さ 12km となった。

W-phase の解析では、震央距離 10°~90° までの 40 観測点の上下成分、42 観測点の水平成分を用い、200~600 秒のフィルターを使用した。

注)W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。

Mw	Mo	断層面解1(走向/傾斜/すべり角)	断層面解 2 (走向/傾斜/すべり角)
7.6	$2.62 \times 10^{20} \text{Nm}$	75.0° / 70.3° / -5.9°	167.0° /84. 5° /-160. 2°



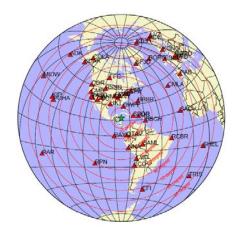
※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phase に関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., 175, 222-238.

解析データには、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) のデータ 管理センター (DMC) より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士及び Rivera 博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置 気象庁作成